



社団法人日本建築家協会
関東甲信越支部 長野地域会

NAGANO-KEN CLUB

JIA 長野県クラブ

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>
jia-naga@jeans.ocn.ne.jp

2012
6.29

Vol.94

覚悟と期待 「オール・フォー・ワン」 —— JIA長野県クラブ会長 川上恵一



総会風景



新会長挨拶



支部長挨拶



前正副会長へ花束贈呈

とうとう会長をやらねばならなくなった。

思えば25年前、長野県クラブが出来た。爽やかな信州を拠点に建築設計という職能を通して地域社会に貢献しようとの合い言葉に集まつた仲間がいた。そして歴代の会長はじめ諸先輩方々のお陰で仲間の結束とクラブの実績というりっぱな「御輿」が出来た。当初は右肩上がりの発展の時代であった。我々の仕事も良くも悪くもその恩恵に浴した。

しかしこの国は今や「縮小の時代」である。景気低迷、政治不信、少子高齢化、大震災、個人的無気力、鬱…。戦後、経験したことのない下向きの時代である。

建築は時代の波に乗るという宿命であるが、今ある建築物やそれを取り巻く景観が雑然としている感は否めない。数こそ満たされても必ずしも質が確保されているとはいえない。家づくりでも核家族の新生活に対応すべく新建材や外国産材で、大量に、短期間で、安価に造り続けた。また環境に優しいとか安心安全とか、耳障りのいいことばが氾濫し操作され、やがて農地が密集した団地に取つて代わった。そして大切な心のつながりと引き替えにひとときの快適な時間という楽園を手に入れたのだ。しかし時代は変わり、建物は余り放置されている。粗大ゴミのように。そして見にくい都市が拡がった。この社会現象はあたかも行く先が見えない難破船の様である。これはその舟に乗つた我々にも責任がある。この難局に直面し、我々はあるべき方向に舵を切らなくてはいけない。

それは「量」から「質」への転換と、再び地域への「愛着」と「責任」を持つことであろう。この爽やかで美しい信州の自然や人々の生活、その心を取り戻さなくてはいけない。時空を越えてかけがえのない建築を とは普遍的な価値であり目的であろう。そんな理想を

考えたとき、目の前には仲間がいる。会員はもとより意を共にする賛助会員が。たとえ数こそ少なく手段は異なっても、信州で建築を志す仲間の目的は一つである。一人の力は無いに等しい。しかしあれば問題を解決する大きな力となる。

一つの焚き火を思い出す。小さな小枝は大きな火の中では取るに足らないが、確かに周りを暖めてくれる。大きな薪は火力こそ強いが、焚き火の中から取り出すとすぐに火は消えてしまうし、焚き火そのものの勢いも無くなる。

人も全くそうだ。個人差はあれ一つの目的に向かっていこうではないか。こんなボクがこの御輿に乗らざるを得ないなら、その上で掛け声だけは威勢よくかけるからとにかく狙いで欲しい。振り落とされないように捕まっているから。ワン・フォー・オールである。

去る4月21日のクラブ総会で新体制ができ新たな事業計画が承認された。7つの委員会も活動を開始した。本部では公益法人化も進んでいる。

我々は建築の質を求めて、日々研鑽に励むと同時に社会に向けて良質な情報を発信しなくてはいけない。仲間の和をもつと・信州の多様で魅力的なまちづくりもしよう・省エネは勿論、地産地消で建築行為を通して生活を豊かにしよう・来たる人たちがうらやむような時空を…思いは拡がるばかりである。まずは出来るところからずくを出してやつていこうではないか。お互い愛着と責任を持って。



総会報告

去る2012年4月21日(土)に【2012年度通常総会】がホテル国際21(長野市)にて開催され、川上新会長体制によるJIA長野県クラブがスタートしました。総会の後には【会員集会】が、「新年度に向けての意見交換会」をテーマとして

開かれました。今年度から川上新会長発案による地域材活性化委員会が発足したこともあり、地域木材の利用に関して等の意見が活発に交わされました。

新体制のスタートにあたって JIA長野県クラブ副会長(総務・会員委員会担当) 山口 康憲



今年度、赤羽会長から川上新会長にバトンタッチされた新たな執行部がスタートましたが、引き続き副会長に重任されました。赤羽会長の4年間は先輩方の中での安心感からか、比較的の気楽な立場で好きな事を言っていたような気がしますが、廻りを見回すと会長を除くと最年長ということで、改めて副会長の重責に身の引き締まる思いです。

昨年1年間を振り返ると、1月には久保さんを見送るという辛い出来事がありました。3月には栄村の震災、東日本大震災とともに伴う福島原発の事故が発生し、被災地の復興も原発事故の収束と電力不足の先行きも全く不透明な状況です。一時は開催も危ぶまれたUIA東京大会が9月に開催され、成功裏に終る事ができたのは我々にとって唯一の明るい出来事でした。

我が国の建築を取巻く環境は、リーマンショック以降の経済の停滞に追い打ちをかけるように大震災が発生し、最近では欧州発の経済危機が懸念される

大変厳しい状況下です。また当クラブにおいても会員・賛助会員の減少傾向に歯止めはかかるないと認識しています。

そのような中で新体制は船出を迎えたが、川上会長は常に前向きな姿勢です。「豊かな地域づくり・空間づくりを目指して地域に貢献し、情報を発信していく「グローカル」な姿勢で共にこの難局を乗り越えていく」という活動方針を示されました。今までとかく内向きになりがちだった会の活動を、地域社会に軸足をおいて公的な分野にも拡げていくということだと思います。

私は総務委員会と会員委員会の担当を仰せつかりました。共に内向きな委員会ですから、「銃後の守りは任せた」と受け取りました。今まで以上に「外にうつて出る」各委員会の活動を足下を固めながら補佐し、会員・賛助会員の交流と活動の更なる活性化を各委員長さんのお手伝いをしながら目指したいと思います。微力ではありますが、会員・賛助会員のみなさんのお知恵を借りながら努力していく所存です。どうぞご協力の程をよろしくお願い申し上げます。

愛と情熱の長野県クラブ



私が長野県クラブに入会したのが39歳の時です。川上会長に誘われて入会したと記憶していますが、よく考えもせぬなんなく入ってしまったと言うのが本当のところです。ところが入会して分かったことは様々な行事に参加することがとても楽しいと言うことです。大先輩達が純粋に建築を語り合い、私のような新入りにも気さくに声を掛けてくださいり、年の差を越えて話しに参加させてくださいました。同業者と建築の本質を語り合うことが出来たことは大変な喜びで、同世代の仲間が次々に出来たとても幸せな時代でした。仕事もなくはないのに志を高く保てたのは仲間達のお陰と感謝しています。その後長年に渡って「若い人達」と呼ばれ続けてきましたが、いつのまにか

JIA長野県クラブ副会長(事業委員会担当) 荒井 洋

副会長を務めさせて頂くことになりました。

今は建築に対する思想を個人で発信できる時代ですし、地方の建築家に設計を依頼する事が珍しいことではなくなります。個々のデザイン力も上がり他人を気にする必要が無くなったかのように思われますが、仲間から学ぶ事はまだたくさんあるのではないでしょうか。川上会長は愛と情熱の人です。どんな人に対しても同じ情熱で熱く語りかけます。私も判ったようなふりをせず青臭い話をもっと皆さんに投げかけ、建築論をかわして夜が明けるような熱い長野県クラブとしていけるよう、精一杯会長を助けていく所存です。話しやすい雰囲気作りを心がけますので皆様の積極的な参加をお待ちしています。2年間よろしくお願ひします。

新年度を迎えて思うこと JIA長野県クラブ副会長(まちづくり委員会担当) 西澤 広智



私は、昨年初めて選定議員会を経験させていただき、各選定委員の会に対する熱い思いを感じ取ることができました。まさか私が副会長をお受けすることになるとは思っておりませんでしたが、この議論の末会長をお引き受けいただいた川上新体制の一員として微力ながら精一杯務めさせていただきます。JIA長野県クラブの副会長という重責を担うことができるか不安でもあります。皆さまのお知恵・ご協力をいただき、川上会長を盛りたてて行きたいと思っております。

3.11を転機とし、戦後ひたすら突き進んできた近代化・高度成長・経済優先主義のシステムの破たんが明らかとなり、眞の幸福な社会・持続可能な社会とは何かが問われる時代となりました。

日本人、一人一人が自分達の足元を見つめ生活の場から個人個人が公の

視点を持って社会を考える必要が有るのでしょうか。

こんな時、JIAは公益法人化に向け活動の在り方・目的を改めて考え、より一層社会との関わりを深めて行く必要があります。

今期、川上新会長のもと、県産材活性化委員会・長野大会準備特別委員会が新たに立ち上げられました。スクラップアンドビルトでなく、古き良きものを残し活用すること(ストック資源の活用)、地域資源としての地域材を最大限利用し、経済的にも循環可能な社会を目指す事は、我々建築家にとって大きな課題だと思います。

地域に根差した活動を通じ、建築・景観・環境創りの情報を発信し、社会に指針を示せるような活動を皆様と共に考えて行きたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

副会長として JIA長野県クラブ副会長(広報出版委員会担当) 片倉 隆幸



昨年のUIA2011東京大会宣言のキーワードは災害を乗り越える動きから学び、地域や文化の境界を超えて多くの取り組みについて連帯し、すべての人々が地域に根差した生活の質の向上ができるような持続可能な未来を目指すという内容でした。

JIAは今後公益法人として地域社会へ職能を生かした情報発信を行い市民の皆様の信頼を得られるよう努力していくなくてはなりません。

また豊かな地域づくりのために正会員と賛助会の皆様が個人個人魅力的な活動をしながらも川上会長のもと相互に連帯し交流を促進、より一層の資質

の向上と協調をしていきたいと思います。

広報出版委員会は各委員会の活動内容の情報発信を基本としていきたいと思います。特に建築生産の中で大変重要とされる県産材の利用と促進、まちづくりや景観のあり方、第23回保存問題長野大会に向けての企画、運営についても長野県という地域性を生かした活動情報を発信していきたいと思います。さらにクラブにふさわしい出版事業を推進していきます。副会長として大変熟でありますが、皆様方のご指導とご協力を心からお願い申しあげまして挨拶とさせていただきます。

地域材活性化委員会 委員長 新井 優

進められそうです。

さて、任期の二年間の内、一年目はまず実情を知る意味で県内5地域(8月下旬伊那、10月上伊那木曽、東信3月、北信5月、中信6月)を訪れて、各地域毎に木材利用の視察を行います。これはただの勉強会を超えて、視察場所のコーディネートを担当者が企画する事でその地域の山から里への具体的なネットワークを興すきっかけ造りも目指しています。

夏のセミナーではお時間を頂いて『川上と川下をつなぐ』と題して、当委員会メンバーをパネラーとしてシンポジウムを予定しています。普段地域材について思っている事があればご意見を当委員会にお寄せ下さい。

尚、『川上と川下をつなぐ』は山と里をつなぐ地域材利用の事ですが、この委員会を立ち上げた川上会長の思いをみんなでつないで行きましょう!!!!

川上新会長の肝煎りの活動として地域材活性化委員会が始まりました。

第一回委員会を6月4日に行いましたが、山や各地域の実情・木の特質・流通・構法等、さらに交流を通して勉強していく必要性を感じました。

また、目指す方向性が同じでもほんの少しの角度の違いが大きな論点になることはJIA長野県クラブの良い処と理解し、今後の活動に活かして行きます。

長野県は広く、地域材が山から里へ下りてくる道筋も様々です。今回の地域材活性化委員会の目標はJIA長野県クラブのメンバーがその流れを主体的に自分の地域内に創っていくかが勝負と思っています。

副委員長の勝野さんが言われた通り、川上対策はできているが川下対策はまだまだ十分ではありません。そこに当委員会として活動の余地が十分あると思いました。特に当委員会の特徴は木材関係の賛助会の皆様と具体的な内容について論議できる事でまとめる事は難儀ですが、実のある委員会活動が

長野大会準備特別委員会 委員長 丸山 幸弘

の建築以上の本質や精神を超えることができればリセットも有りうるかも知れない。しかし、経済優先主義的な考え方で超越することは無いと考えています。現在の経済低迷の時代にこそ「何が重要なことなのか」を問いただされている気がしています。私たちができる事は小さいことかもしれませんが本質を見据えた社会活動を行っていかなければならぬと考えています。保存問題長野大会が何か社会に提案できる一助になればと思います。その為にはこの委員会の重要性が求められておりプレッシャーに感じるところです。不足の委員長をサポートしていただかねばなりません。その為には行動力ある若手会員と支部保存問題委員会OB等の先輩、頼もしい賛助会員の方々になっていただきました。是非、絶大なご支援をよろしくお願いいたします。また、委員のみならず、まちづくり委員会を始め全会員のご支援を重ねてお願ひいたします。



会員集会の様子



活発な意見交換



懇親会の様子

第15回 JIAリフレッシュセミナーに参加して

君島 弘章

2012年3月4日から6日にかけて静岡県熱海リフレッシュセンターでセミナーが開催され参加してきました。講師には初日、内田祥哉先生を招き、北海道から沖縄に至るJIA各地域会から建築家22名ほどが参加しディスカッションを行いました。

テーマは「木構造」で、休憩をはさみながらネットワークセッション終了は21時という熱いものでした。内田先生の御話では、戦前の東京は木造建物が多く、空襲により火に呑み込まれた東京は川を挟んだ対岸の火事でも輻射熱でこちら岸の建物が燃え始めるといったものだったそうです。それを教訓に日本政府は火災に弱い都市から火災に強い都市の創造に向け戦後木造の禁止法が出る等、火災に強い都市づくりを行おうとしてきたということです。しかし国際化の波は、木材やエンジニアリングウッド等の販売網を広げたい米国などの諸外国からの要望もあり大型木造建築が出現する流れになってきている。というものでした。最近も集成材などを使用した大型木造建築の火災実験があるが、内田先生は個人的に木造は推進したい。しかし木造は2階程度の階層が望ましく、まして多くの人々を収容する大型の施設や校舎などは平屋が避難などの安全を考えた上からも好ましい。とおっしゃられ、今後増えていくであろう大型木造建築への御自身の認識を示されました。二日目は構造家の播繁さんがおみえになり木質構造の

ドーム、長野のエムウエーブなど構造家として関わった建物をエンジニアリングの立場から木質構造の可能性を示されました。この日も朝9時から21時の終了と熱いセミナーとなりました。最終日はネットワークセッショングループ発表を行い終了となりました。内田先生ご本人と御会い出来、貴重な国家的オフレコもお聞きし、日本全国の建築家と意見交換ができ、大変有意義な三日間でした。



賛助会だより

人に優しく、森と共生する。環境に優しい住まい創りのご提案。

新入会員 征矢野建材株式会社 星川 嘉詠

弊社は木材・建材販売業として1977年、松本市白瀬渕の地で営業を開始いたしました。おかげさまで今年36期を皆様と過ごさせていただいております。その中で本社の移転、プレカット工場の新設、羽柄材加工機や合板加工機の新設、木質建材の製造加工工場の新設、と時代と共に変化してまいりました。現在は信州木材製品認証工場としてご利用頂き、年間約1,850m³の県産木材を使用しております。間伐材の有効利用

の接着重ね梁の開発や、傷のつきにくい熱盤圧密フローリングの開発など、今後も地域材の使用と利用率を高め、新製品の開発を積極的にし、更なる次世代の夢も現実できるよう進めていきたいと考えております。

〒399-0033 松本市篠賀7116-1 TEL:0263-86-0250

クリーン、快適、省エネ、人に優しい冷暖房設備を提案します。

新入会員 有限会社平成熱学 濱 恒徳

(有)平成熱学は社名のとおり平成元年創業の冷暖房設備設計、施工の企業です。当社社員におきましては冷暖房のように、仕事に対する熱いハート、クールで冷静な判断力をモットーに作業に従事しています。

当社は暖房設備工事及び空調工事という2つの柱を中心に、設計段階から施工、メンテナンスまでを行っています。

暖房設備工事では床暖房、ファンコンペクター、電気蓄熱暖房機等、幅広く取り扱っており、熱源におきましては、電気、ガス、灯油など様々な選択ができます。個人住宅、オフィスビルや工場、集合施設など多数の施工実績があります。

一方、空調設備工事では、あらゆる空気調和システムにおける設計、施工、保守に携わっています。ショッピングセンター やオフィスビルの天井カセット形から個人住宅のルームエアコンまで、あらゆる環境に対応する技術と経験があります。当社は単に施工にとどまらず、設備設計の段階や機種選定の段階から参加させて頂くことにより、お客様のニーズを的確にとらえ、最適な空気調和システムを実現させています。

今後とも、より一層のご愛顧を賜りますよう心からお願い申し上げます。

〒390-0851 松本市大字島内6344-5 TEL:0263-48-2125

これからの省エネ時代 ~ブラインドは内から外へ~

日本オスモはドイツの木製品メーカー、オスモ社の製品を販売する輸入商社です。

当社の販売の中心は木材保護塗料『オスモカラー』ですが、住宅に関わる製品を扱う商社として、木製品以外の建材をエーデルジャパンという会社で販売をしています。エーデルジャパンが今、積極的に取り組んでいる商品がドイツのヴァレーマ社の『外付けブラインド』です。ヴァレーマ社はドイツ最大手の日除けの総合メーカーで、外付けブ

日本オスモ株式会社 吉田 孝

インドは屋外に設置するもっとも合理的な日除けアイテムです。私たちに最も身近でクリーンなエネルギーである太陽光。太陽光と上手に付き合いながら快適な生活を送れる商材として、次世代省エネ住宅でも注目されています。日本オスモおよびエーデルジャパンは自然と環境を守るために、高品質な商品とサービスを通じて本物の価値をお届けします。

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-5大台ビル5F TEL:03-5369-2671

NEW+NEXT 新しいもの、次なるものへの“こだわり”

わたしたちは、チャレンジ精神にあふれた技人(わざびと)の集団です。

創立以来、時代の流れを素早く読み取り、新分野・新領域へ挑戦することを目指しています。

ニューストが作り出す商品は、木・アルミ複合断熱商品(木の持つ温もりとアルミの持つ耐久性を融合した断熱窓・スクリーン)もう一つは消音システム商品(消音性能を備

株式会社 ニュースト 笹崎 茂

えた外装ルーバー・パネル)です。異なる商品群ですが、ユニバーサルデザイン・エコロジー・デザインと環境に配慮した提案商品です。

これからの暮らしを豊かにするために、ニューストは多様なユーザーのニーズに対応して、時代にあった商品をお届けしたいと考えています。

〒387-0000 千曲市栗佐1603 TEL:026-261-3870

信州木材認証製品を直送する 顔の見える信頼と安心の製品づくり

根羽村森林組合 鈴木 吉明

根羽村森林組合は長野県・岐阜県・愛知県を流れる矢作川の水源にあたる根羽村に位置しています。明治時代より「親が植え 子が育て 孫が伐る 親子三代の山づくり」が継続されてきたことにより、充実した人工林のスギやヒノキの森林資源が育成されました。こうして育成された素性や色あいの良いスギやヒノキを使って、梁材・桁材・羽目板等を生産しています。

最近は、林齡の高い大径材の伐採も増えてきたことから、みがき丸太や梁・桁材用の大径材にも対応しており、そうした素材の魅力と素材の供給力に好評を博しています。

また、一村・一森林組合で地域の森林資源を活かして伐採・製材加工・販売までの林産業を確立し、これを一次産業から三次産業までを担う「根羽村トータル林業」と呼んでいますが、森林という地域資源を上手に活用した村づくりにも結びついています。

こうした地域産業の確立により、全国からこれに従事する若者が少しづつ増えていることから、過疎化の進む全国の農山村より、地域活性化の事例として全国的にも注目を集めつつあります。

〒395-0701 下伊那郡根羽村407-10 根羽村森林組合 TEL:0265-49-2120

ハローヒートは調湿の出来る快適な健康住宅づくりのお手伝い

株式会社ハローヒート 小笠原 守

3年前に社名を日本ヒート(株)から(株)ハローヒートに改名致しました。会社は元々床暖房専門会社として昭和57年にスタートし、今年でちょうど30年になりました。施工実績も5,000件を超えており、お客様方々と長くお付き合いさせていただいている会社の大切な財産となっております。

ハローヒートのハローとは、ハローワークのハローと間違えられますが、スペルで書くと「HALO」となり、「輻射」という意味です。床暖房は輻射暖房の代表格で、パネルヒーターも同じです。輻射暖房は輻射熱を利用し壁・床・天井に輻射効果をもたらし、暖まってしまうとともに快適な暖房です。

輻射暖房は7~13ミクロンの遠赤外線の波長が人間の体の温点を刺激し暖かさを感じさせる暖房です。体感温度は空気暖房より2~3°C低くても同じ体感の為省エネ暖房です。温度バランスも、部屋の中がほぼ均一になる為とても快適です。

快適な暖房とは、単に暖房方式の選択だけでは決まるものではなく、建物の性能が大きく影響します。そこには高い断熱性能と適度な湿度が重要です。今までの住宅は湿気をアレルギーのように嫌っていましたが、そうではなくそのバランスが大事です。特に、輻射暖房の場合は、この2つの条件が快適性を左右します。

断熱性が悪い建物に高温水を流して暖をとると不快感を覚えます。逆に、冬建物内

の湿度が低い状態で暖房するとより乾燥して不快を感じた経験があると思います。適度な湿度とは快適さを求める為には絶対必要な条件です。

当社は、(株)ハローヒートになってセルロース断熱の事業を始めました。今までのように、ただ暖房のことだけを提案するのではなく、より快適な空間づくりをする為にはセルロース断熱が最も効果的な断熱方式だと確信しております。

紙の繊維は調湿効果があり、室内の湿度を吸湿・放湿しほば一定に保ってくれる優れものです。勿論、今までの概念を捨て、内張りに気密シートは張りませんから、冬の湿度が30%以下には絶対下がらず、採用されたお客様は「何故だろう?」と驚かれておりますし、室内結露もまったく無く、暖房の快適さも今までと全然違います。

すでに何人かの先生方にはセルロース断熱の良さを体験していただき、今までの断熱方式からシフトしていただきました。その上、当社のセルロース断熱で施工すると、準耐火構造となり、火災保険料が半額になるというメリットもあります。

当社は、今までのような高気密住宅でなく健康住宅をつくるお手伝いを致します。輻射冷暖房工事とセルロースを使った断熱・防音・防露・調湿工事の相乗効果が大きく、マッチングするとすばらしい温熱環境をつくり出すことが出来ます。

是非皆様のご用命をお待ち申し上げております。

〒390-0851 松本市大字島内4279-1 TEL:0263-31-0891

■今後の行事予定

7月28日(土)…夏のセミナー 崖の湯 薬師平「茜宿」にて開催します。

■開催したイベント

6月 3日(日)…『新潟県内大学卒業設計コンクール』

審査員 西澤広智副会長

6月11日(月)…『エコハウスセミナー』 23名参加

6月23日(土)…『まち並みウォッチング in 上田』 24名参加



今年度から会報の取り纏め役を務めさせていただきました。どうぞよろしくお願ひいたします。今号が初めての編集作業となりましたが、今までに関わったことのないジャンルの仕事であり、寄稿依頼から写真の募集・選択、全体構成や校正など、特に発行までの時間的な配分に苦労しました。今後は川上新会長体制となったJIA長野県クラブの特色を、そして建築を通しての「信州への熱き想い・愛と情熱」を更に色濃く発信できるような会報にしていきたいと存じます。皆様のご協力・ご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。下崎明久

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。

編集人／下崎明久 発行所／JIA長野県クラブ 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内 TEL: 026-232-3897 FAX: 026-232-5303

発行人／川上恒一

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/> E-mail jia-naga@jeans.ocn.ne.jp